

上小っ子 校長室だより

2023年5月2日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

上郡町立上郡小学校 校長 森中 誠

1年生が毎日、元気に登校しています。大きなランドセルに少し不安定さを感じながら、力強く歩いてきます。その周りを上級生が見守りながら歩幅を合わせて歩いています。なんとも微笑ましい様子です。

今回は、前号の続きで、「自律」と「自立」の心を育てるという本年度の取り組みで、「自立」のお話です。

「自立心」を育てていくためには、「子どもたちにやってみせよう、自分たちでやらせてみよう」と考えて、いきなり活動や課題を与えて任せっきりにしてしまいそうですが、そうではないと考えます。

本を読むと、自立心を育てるプロセスとして、「教える」→「見守る」→「認める」なんだそうです。

一つ目の、「教える」について。

教師側が「やらせてみたい」という活動も、児童からの「やってみたい」という活動もまずはそれを実行するための丁寧な指導が必要です。家庭においても、新しいことを取り組ませるときに、その方法や気をつけるべきポイント、ルールをまず丁寧に伝えていくことが大事です。

二つ目の「見守る」について。

これが難しいです。つい新しい指導を入れなくなったり、手を出したくなったりしますが、できるところまでは、見守るです。失敗もあると思いますが、否定をせずにうまくいかなければ次にどうしたらできるのかをもう一度「教える」に立ち戻って話し合うことが大切です。

勉強の練習問題をやる場面でも、最後の丸付けのタイミングまでは見守れたらいいですね。

三つ目の「認める」について。

うまくいったら、認めて褒めてあげる。子どもも大人も褒めてもらえたらうれしいものです。認めてもらうことで、より頑張ろうと思えます。失敗しても頑張った過程や努力を認めてあげましょう。

学校でも家庭でも学びや生活の自立を促す上で、このプロセスは必要だと思います。ぜひ、意識して学校の教育活動やしつけの部分で行っていったらと思います。

ここまでお話しして、このことはあの山本五十六の言葉に通じているなあと思いました。その言葉はこれです。

「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば、人は動かじ。

話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。」

いろんな場面で引用される名言ですが、人の自立心を育てる思いがあるのだなあと改めて感じました。

